

三八番

やすみしし 我^わが大^{おほき}君^み 神^{かむ}ながら 神^{かむ}さびせすと
 吉^{よしの}野^が川^は たぎつ河^{かふち}内に 高^{たか}殿^{どの}を 高^{たか}知^しりまして
 登^{のぼ}り立^たち 国^{くに}見^みをせせば たたなはる 青^{あお}垣^{かき}山^{やま}
 やまつみの 奉^{まつ}る御^み調^{つき}と 春^{はる}へには 花^{はな}かざし持^も
 ち 秋^{あき}立^たてば 黄^{もみち}葉^ちかざせり 行^ゆき浴^そふ 川^{かは}の神^{かみ}
 も 大^{おほ}御^み食^けに 仕^{つか}へ奉^{まつ}ると 上^{かみ}つ瀬^せに 鵜^う川^{かは}を立^た
 ち 下^{しも}つ瀬^せに 小^さ網^なさし渡^{わた}す 山^{やま}川^{かは}も 依^よりて仕^{つか}
 ふる 神^{かみ}の御^み代^よかも

反^{はん}歌^か

三九番

山^{やま}川^{かは}も 依^よりて仕^{つか}ふる 神^{かむ}ながら たぎつ河^{かふち}内に
 舟^{ふな}出^でせすかも